

各種予防接種標準スケジュール表

2024/10/01 現在

- ◆ これは元は当院の職員教育用のあんちょこです。予防接種に関心が高い保護者の方の参考のため公開します。
- ◆ 世界の標準に遠く及ばない時代が長く続きましたが、近年かなり追いついてきました。でもまだまだです。
- ◆ 日本では特殊な事しないと事実上使えないワクチンは記載してません。
- ◆ 元が職員用あんちょこなので、読みづらい言葉や用語解説が丁寧でないが許してね。
- ◆ 詳しくは是非ここ見て下さい。→ <https://www.know-vpd.jp/>
- ◆ 接種開始年齢が若い順に並べました。
- ◆ **注射生ワクチン⇔注射生ワクチン**の間隔のみ、**4週間**開ける必要があります。他の間隔制限はなくなりました。
- ◆ この冊子は割と頻りに更新するので、最新版は <https://www.miyacli.com/vaccine.html> をご覧下さい。

● B型肝炎(HBV)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	7~8ヶ月頃	10~15歳
開始時年齢				
2ヶ月 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加
	←28日(4週相当)		←1歳前に3回目を終わらず 1回目から140日(1回目の5~6ヶ月後に相当)	

- ◆ 通常の理想的な接種は、**2ヶ月で1回目、3ヶ月で2回目、7~8ヶ月で3回目**。
- ◆ これは1・2回目については、DTPPHやPCV15と同時にやるべし、という事を意味する。
- ◆ 賞味期限は10~15年なので、10~15歳の時に追加接種するのが望ましい。HPVと同時とかで。
- ◆ 垂直感染(母親がB型肝炎の場合に、それが出産時に児に感染する事)例では、出産後即(12時間以内)接種開始。この場合は健康保険でできる。日本ではこういう↑例は妊娠中からチェックされているので、産科の先生に任せます。
- ◆ 公費でできるのは**0歳児のみ**。1歳になるとアウトで、以降は自費。ただし自費でも接種した方が良い。

● ロタウィルスワクチン(RV)接種スケジュール

ワクチン種別: 経口生ワクチン

◎ ロタリックスの場合

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月
開始時年齢		
2ヶ月 計2回接種 これが標準	1回目	2回目
	←20週迄に(14週6日迄を推奨) 1回目を終わらず	
	←24週迄に 2回目を終わらず	
	4週以上	

◎ ロタテックの場合

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月
開始時年齢			
2ヶ月 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目
	←24週迄に(14週6日迄を推奨) 1回目を終わらず		←28週迄に 2回目を終わらず
	←32週迄に 3回目を終わらず		
	4週以上		4週以上

- ◆ 2023.4月現在、GSK社製“ロタリックス®”と、MSD社製“ロタテック®”の2製品があり、両者で接種回数等が異なる。
- ◆ 理想的な接種は、**2ヶ月に1回目、3ヶ月で2回目(ここまで共通)、4ヶ月で3回目(ロタテック®のみ)**、となる。
- ◆ どちらのワクチンも接種可能期間に制限がある。いずれも**1回目は6週齢以降**でなければならない。
- ◆ (ロタリックス®)**1回目は20週、2回目は24週までに**接種しなければならない。
- ◆ (ロタテック®)**1回目は24週、2回目は28週、3回目は32週までに**接種しなければならない。
- ◆ この制限は厳守が求められ、過ぎると接種する事ができない。
- ◆ ここで言う「までに」とは、例えば「20週までに」は「出生140日までに」という意味で、141日はアウト。01/01が誕生日なら01/08(同じ曜日)が出生7日(1週0日)となる。
- ◆ 腸重積の既往がある児には接種できない。**1回目を14週6日までにと推奨**するのも腸重積のリスクを減らすため。
- ◆ 6週齢以降なら接種できるが、他のワクチンとの兼ね合いから**1・2(・3)回目共、Hib+PCV等と同時にやるべし**。

● Hib ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	1歳	2歳
開始時年齢	初回免疫-Primary-の期間			追加免疫-Booster-の期間	
2~6ヶ月 計4回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加 (通算4回目)	←1歳になり次第やる ただし3回目から7ヶ月以上後
7~11ヶ月 計3回接種			1回目 2回目	←最遅1歳前 追加	←1歳になってからやる 2回目からは 7ヶ月以上後
1歳~4歳 計1回接種				1回 で終了	
5歳~ 適応外					

- ◆ **2024/04/01 以降開始する児は、これを使わない。** → DTPPH 参照。既に既に開始→進行中の児用に記載を残す。
- ◆ 理想的な接種は、**2ヶ月(遅くとも6ヶ月)**から開始して4週間隔で3回接種、1歳になり次第追加免疫としてもう1回、となる。**追加免疫は必ず1歳になってから**。PCV13と同じ。
- ◆ 「4週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由はDPTPやPCV13と同時にやりたいから。
- ◆ 「4週以上」は長くても8週を超えず、「7ヶ月以上」は13ヶ月を超えないことを強く推奨。
- ◆ 5歳以上は既に自然免疫獲得済とみなされ、適応外となる。
- ◆ 初回免疫(2~6ヶ月開始児で最初の3回)を接種できるのは、0歳である間のみ。遅れた場合の例↓
- ◆ 初回免疫の途中で1歳を超えたら、4週以上の間隔で**あと1回だけ**やり、それを**追加免疫**と見なしてHib接種終了。

● 小児用肺炎球菌ワクチン(PCV15 または 20)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	1歳	2歳
開始時年齢	初回免疫-Primary-の期間			追加免疫-Booster-の期間	
2~6ヶ月 計4回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加 (通算4回目)	←1歳になり次第やる
7~11ヶ月 計3回接種			1回目 2回目	←最遅2歳前 追加 (通算3回目)	←1歳になってからやる
1歳 計2回接種				1回目 追加 (通算2回目)	
2歳~4歳 1回接種					1回 で終了
5歳~ 公費適応外	~17歳は公費適応外だが自費でなら接種可 18~64歳 合併症がない場合は接種不可				

- ◆ PCV15は2024/04/01登場、PCV20は2024/10/01登場。数字の大きい方がたくさんの肺炎球菌を防げる。
- ◆ **2024/10/01 以降にPCVを開始する児は、PCV20を使う。**既にPCV15で進行中の児は最後までPCV15を使う。
- ◆ 理想的な接種は、**2ヶ月(遅くとも6ヶ月)**から開始して4週間隔で3回接種、1歳になり次第追加免疫としてもう1回、となる。**追加免疫はPrimary完了後最低60日空け、且つ必ず1歳になってから**。普通はDTPPHと同時。
- ◆ 「4週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由はDTPPHと同時にやりたいから。
- ◆ 初回免疫の2・3回目は、どんな遅くとも全て2歳未満でやる。ただし普通にやれば1歳になる前に終わるはず。
- ◆ 初回免疫の2回目が1歳になっちゃった場合、2回目はやるが、3回目は飛ばして**追加免疫**に進む。
- ◆ その他、本来のスケジュールから遅れた場合は対処がややこしいのでその都度ご相談下さい。

● 四種混合ワクチン(DPTP※- I 期) 接種スケジュール ※DPT-IPV とも記載

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	1歳	2歳	5歳
開始時年齢	初回免疫の期間			追加免疫の期間		
2ヶ月～1歳 計4回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加 (通算4回目)	追加(自費) (通算5回目)	
7.5歳～ 公費適応外	3週以上			3週以上	1年～1.5年	最低0.5年

- ◆ **2024/04/01以降開始する児は、これを使わない。** → DPTPH 参照。既に既に開始→進行中の児用に記載を残す。
- ◆ 理想的な接種は、理想的な接種は、**2ヶ月から開始して4週間隔で3回接種、3回目の1年後(即ち1歳4ヶ月前後)に追加免疫としてもう1回**、となる。
- ◆ 「3週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由は Hib や PCV13 と同時にやりたいから。
- ◆ 「3週以上」は実際には8週を超えないことを**強く推奨**。初回免疫(最初の3回)は0歳である内に済ませたい。
- ◆ 7歳6ヶ月以上は適応外とされ、公費での扱いはなくなる。
- ◆ 百日咳対策が不十分なため、本来はポリオ対策を兼ね**5～6歳(幼稚園年長)**でもう一度 **DPTP** を接種すべき。ただし 2023.4 月現在、この目的で DPTP を使用する事は承認されておらず、合法的には DPT と IPV を別々にやらないといけない。ポリオはほぼ駆逐済なので、コスト面から海外では DPTP でなく DPT を用いる国が多い。いずれにせよ自費。やるなら DPTP で良いと思うが親の同意が必須。

● 五種混合ワクチン(DPTPH※- I 期) 接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

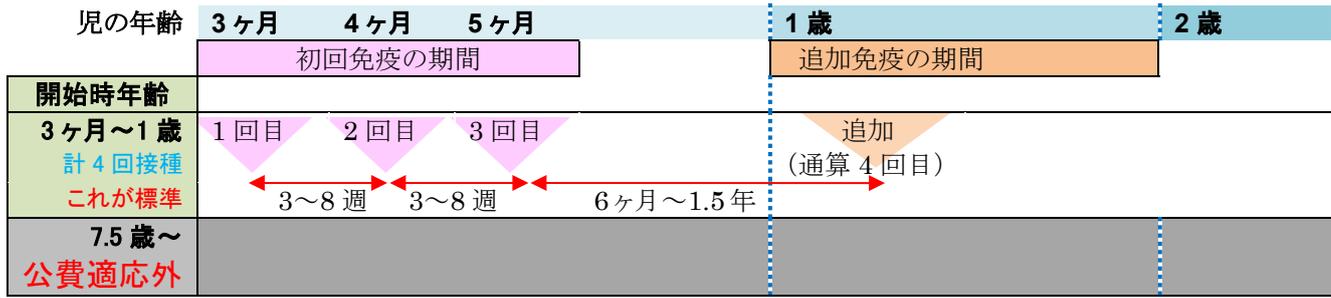
※区の公式書類では DPT-IPV-Hib という書き方になっている。意味は同じ。

児の年齢	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	1歳	2歳	5歳
開始時年齢	初回免疫の期間			追加免疫の期間		
2ヶ月～1歳 計4回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目	追加 (通算4回目)	追加(自費) (通算5回目)	
7.5歳～ 公費適応外	3週以上			3週以上	0.5年～1.5年	最低0.5年

- ◆ 理想的な接種は、**2ヶ月から開始して4週間隔で3回接種、1歳になり次第追加免疫としてもう1回**、となる。**追加免疫は3回目のあと最低6ヶ月空け、且つ一般的には1歳になってから**。普通は PCV15 と全回同時となる。
- ◆ 「3週以上」というのは、実際には4週間隔を推奨。理由は PCV15 と同時にやりたいから。
- ◆ 「3週以上」は実際には8週を超えないことを**強く推奨**。初回免疫(最初の3回)は0歳である内に済ませたい。
- ◆ Hib 単独にはあった「接種開始が7か月齢を過ぎた場合は3回」のような取扱は**ない**。開始が遅れても4回接種する。
- ◆ 7歳6ヶ月以上は適応外とされ、公費での扱いはなくなる。
- ◆ これ(DPTPH)は従来の四種混合(DPTP)と Hib を混ぜて1本にした製品なので、**☆(DPTPHを1本うつ)のと★(DPTPとHibを別々にうつ)のは同じ意味**。実際に接種するのは**☆か★のどちらか一択**。普通は**☆DPTPH**を使う。ただし既に DPTP と Hib を別々に接種している児は原則として最後までそのまま別々で行く。
- ◆ これだと百日咳対策が不十分なため、本来はポリオ対策を兼ね**5～6歳(幼稚園年長)**で更に **DPTP** を接種すべき。ただし 2024.4 月現在、この目的で DPTP を使用する事は承認されておらず、合法的には **DPT+IPV** で別々にやらないといけない。いずれにせよ自費。実際には DPT は入手困難であり、やるなら DPTP で良いと思う。なおこの目的では DPTPH は使用できない。
- ◆ 製品としてゴービック®(田辺三菱)とクイントバック®(明治)の2種があるが、ワクチンの内容・性能はほぼ一緒。

●不活化ポリオワクチン(IPV- I 期)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン



- ◆ **2012/08/01 以降生まれの児は基本、これは使わない。** → DTPH 参照。特殊な用途に備えて記載を残す。
- ◆ 理想的な接種は、**3ヶ月から開始して4週間隔で3回接種、3回目の1年後(即ち1歳5ヶ月前後)に追加免疫としてもう1回**、となる。これは DPT と全く同じスケジュール。
- ◆ 3～8週というのは、実際には4週間隔を推奨。理由は Hib や PCV13 と同時にやりたいから。
- ◆ 既に経口生ポリオ(OPV)を2回接種した児は対象外。OPV 1回接種した児はIPVの2回目から開始。
- ◆ 7歳6ヶ月以上は適応外とされ、公費での扱いはなくなる。
- ◆ DPTとIPVを混ぜた4種混合ワクチン(DPTP)が2012.11月に、更にHibを追加した5種混合ワクチン(DTPH)が2024年4月に出た。実際に接種するのはDTPPか、DTPHか、どちらか一択である。**DPTP または DTPH を使っている児は別途にIPVを接種しない。**
- ◆ 2014.12月でDPTは出荷中止となり、市場からなくなった。種々の事情でその後も細々と生産が続いているが、本来当然DPTとセットであるIPV単独接種は今後なくなっていく予定。
- ◆ ただしこのスケジュールではポリオ対策として不十分であり、DTPHの所で触れた百日咳対策も含めて5～6歳あたりでDPT+IPVを接種するという道はありうる。いずれにせよその接種は自費である。

●BCG ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 生ワクチン



- ◆ 理想的な接種は、**5ヶ月頃に1回**、となる。DTPP・Hib・PCVなどが一段落(最初の3回)してからの接種でよい。
- ◆ 2013.3月までは「6ヶ月未満まで」の接種だったが、2013.4月から「1歳未満まで」に延長された。
- ◆ 公費接種は**指定の医療機関でのみ**の扱い。当院は指定でないです(2023.4月現在)。
- ◆ 自費接種であれば当院で可能。

●麻疹風疹ワクチン(MR)接種スケジュール

ワクチン種別:生ワクチン

児の年齢	1歳	5歳	12歳	17歳
開始時年齢	標準			
1歳 計2回接種 これが標準	I期 1歳である間にI期	II期 年長さんである間にII期	★かつてはここにIII期(中1)・IV期(高3)があったが、2013/03/31で廃止された。 ★風疹抗体の少ない成人男性にはV期がある	

- ◆理想的な接種は、**1歳なりたてで1回接種(I期)を済ませ、後に幼稚園年長さんなりたての時にもう1回接種(II期)**。
- ◆I期は1歳である間、II期は対象学年の03/31を過ぎると公費適応外となる(例外あり↓)。自費ならいつでも可。
- ◆**江東区**では、小学校4年生の03/31までは公費で接種できる制度あり。ただし異常発生時の補償が薄いなど、お薦めしません。なるべく**本来の年齢(I期:1歳, II期:年長さん)の内にやるべき**。つか絶対やれ。遅れてもいいと思うな。
- ◆妊娠中に風疹に罹ると高確率で赤ん坊に障害が出る。特に女子は、**結婚前に抗体価調べ、低ければ必ず接種し直せ**。
- ◆江東区及び国の制度として、風疹抗体が少ない人に公費でMRワクチンを接種する制度がある。詳しくはご相談下さい。

●水痘(みずぼうそう)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別:生ワクチン

児の年齢	1歳	1歳6ヶ月
開始時年齢		
1歳 1~2回接種 これが標準	1回	2回目 ←3歳前に2回完了させる
3歳~ 公費適応外	3~6ヶ月(最長12ヶ月)	

- ◆理想的な接種は、**1歳で1回、1歳3ヶ月~1歳半、遅くても2歳未満でもう1回**、となる。
- ◆3歳以降は自費。1回目が2歳9ヶ月以降だと、3ヶ月後には3歳になってしまってるので、2回目は自費になる。
- ◆1回目はMR-I期と同時か、またはMR-I後4週以上開けてわりと早い時期の接種を推奨。
- ◆併せておたふくワクチン(1回目)も行うべき。どちらが先かは流行状況にもよるが、そもそも両者同時接種でよい。
- ◆妊娠中に水痘に罹ると、母体死亡や赤ん坊の障害につながる恐れあり。特に女子は、**結婚前に抗体価調べ、低ければ必ず接種し直せ**。まあ大抵(95%)は抗体持ってるのであまり心配いらぬけど。
- ◆帯状疱疹予防の為、50~60歳でもう一回やるとなお良い。ただしその目的ならシングリックス(後述)の方が効果が良い。

●おたふくかぜ(ムンプス)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別:生ワクチン

児の年齢	1歳	4~5歳
開始時年齢		
1歳 1~2回接種 これが標準	1回	2回目
	3~4年	

- ◆理想的な接種は、**1歳で1回、4~5歳でもう1回**、となる。
- ◆これは自費任意接種なので、**1歳以上**という以外に接種時期・回数についての規定はないが、医学的には2回接種が望ましい。ただし現状、日本ではあまり2回接種は行われていない。つか1回もやってない。
- ◆1回目はMR-I期と同時か、またはMR-I後4週以上開けてわりと早い時期の接種を推奨。
- ◆水痘ワクチン(1回目)とどちらが先かは、流行状況によっても異なる。て言うか、そもそも両者同時接種でよい。

●A型肝炎(HAV)ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	1歳	1歳1ヶ月	1歳6ヶ月
開始時年齢			
1歳 計3回接種 これが標準	1回目	2回目	3回目
	← 1ヶ月		← 5ヶ月

- ◆ 理想的な接種は、**1歳で1回目、1歳1ヶ月で2回目、1歳6ヶ月で3回目**となる。
- ◆ ただしこの設定↑は暫定的な物で、必ずしも確定されていない。その理由は↓
- ◆ 日本ではかつて2013.3月まで、HAVワクチンは「16歳以上に接種」とされ、小児への適応がなかった。しかし海外では小児にも接種しており、例えばアメリカでは1歳から接種している。この↑スケジュールはそれに準じた物だが、アメリカと日本では使用ワクチンが異なるため、日本のHAVワクチンでもこれで妥当なのかどうかは議論の余地がある。
- ◆ 2023.4月現在、日本のワクチンは添付文書(医療用薬剤の注意書きのこと)的には0歳児でもOK(やるべきかは別)。

●日本脳炎ワクチン接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	3歳	4歳	9歳
開始時年齢	I期初回	I期追加	II期接種
3歳 計4回接種 これが標準	1回目 2回目	追加 (通算3回目)	II期
	← 1週以上 ← 6ヶ月以上、普通は1年		
7.5歳～(I期) 13歳～(II期) 公費適応外		I期は7.5歳以上 公費適応外	II期は13歳以上 公費適応外

- ◆ 理想的な接種は、**3歳になったら4週間隔で2回接種[I期初回接種]、4歳になったらもう1回接種[I期追加]、更に9歳でもう1回接種[II期]**、となる。法的には6ヶ月齢以上なら可だが、普通は赤ん坊にはやんない。
- ◆ 「1週以上」というのは、実際には**2～4週間隔**を推奨。4週を超えないことを**強く推奨**。
- ◆ 「6ヶ月以上、普通は1年」というのは、実際には**1年間隔**を推奨。1年を大きく超えないことを**強く推奨**。
- ◆ I期(最初の3回)については7.5歳以上、II期については13歳以上になると公費適応外となる。ただし↓
- ◆ 例によってアホが無駄に騒いだせいで近年しばらくワクチンが停止され、然るべき年齢で接種できなかった児が大量に出た。この救済のため、**1995/04/02～2007/04/01 生まれの人は、20歳前日まで何歳でも**(7.5歳～8歳、13歳以上も含む)**接種できる事**になった(特例II期と呼ぶ)。合計で4回になるまでやる。
この場合、1→2回目と3→4回目は最低1週間、2→3回目は最低半年開ける必要がある。
- ◆ この辺非常にややこしくなってるので、詳しくはご相談下さい。

●二種混合ワクチン(DT-II期)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	11歳～12歳
開始時年齢	
11歳 1回接種 これが標準	1回目
13歳～ 公費適応外	

- ◆ 理想的な接種は、**11歳に1回**、となる。
- ◆ これはDPTもしくはDPTPの10年越しの最終回に相当する。つまりそれらをきちんと4回接種していることが前提。
- ◆ 13歳以上は適応外ではないが、公費での扱いはなくなる。
- ◆ DTでは百日咳対策が不十分であるので、その成分を含んだDPT(またはDPTP)をDTの代わりに接種するのもアリ。ただしそれは公費ではできないし各種の国家補償も付かなくなる。

●髄膜炎菌ワクチン(MCV4)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	11歳～12歳
開始時年齢	
2歳 計1回接種 これが標準	最後のPCV13 1回目 4週以上

- ◆ 理想的な接種は、**11～12歳で1回**となる。(接種自体は2歳～55歳なら可能 次行↓のような人は早い方が良い)
- ◆ 日本ではあまり見かけない感染症だが、無脾・先天的な補体欠損など、易感染性のある人には早期の接種を強く推奨。
- ◆ かかった場合の被害は甚大なので一般の人も接種を考慮すべき。特に寮生活する人(だから11～12歳で推奨)。
- ◆ 不活化ワクチンなので当然数年(5年位?)で効果が低下する筈だが、2回目以降の接種について明確な基準はない。
- ◆ 北米や一部欧州への留学(学生寮等に入居する場合)やイスラムの大巡礼(Hajj)では接種が義務づけられている。
- ◆ 髄膜炎菌には多数の血清型があるが、日本で一番多いのはB群。しかし2023.4月現在日本で認可されてる唯一の髄膜炎菌ワクチンであるメンクアッドフィはB群を防げない(血清型A,C,Y,W-135に対応)。困ったな。
- ◆ 海外には他にも髄膜炎菌ワクチンがあり、その中にはB群対応のものもあるが、現状日本では(普通には)使えない。
- ◆ 小児用肺炎球菌ワクチン(PCV15)を実施中の児では、それを全回完了後4週以上開けて接種する。
- ◆ 妊婦・授乳婦は治験されてないので接種を推奨しない。

●子宮頸癌(HPV)ワクチン接種スケジュール

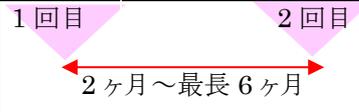
ワクチン種別: 不活化ワクチン

児の年齢	小6～高1
	できるだけ処女である内
開始時年齢	
女子中学生 計3回接種 これが標準	1回目 2回目※注 3回目 ←1回目から6ヶ月である事に注意 (2回目が遅れた場合は、別に既定あり<下記参照>) 1～2ヶ月(製品で異なる) 6ヶ月
何歳でも接種法は同じ	処女でなくても何歳でも。

- ◆ 理想的な接種は、**女子中学生な内に3回**となる。
- ◆ 2024.4月現在、MSD社製“シルガード9®”，“ガーダシル®”，GSK社製“サーバリックス®”の3製品があり、効能等が微妙に異なる。一番いいのはシルガード9。88%の子宮頸癌を防げる(サーバリックスとガーダシルは60～70%)。
- ◆ 2023.4月からシルガード9が公費化されたので、接種するならシルガード9一択。他を選ぶべき理由はない。
- ◆ 2回目接種が1ヶ月後か2ヶ月後かは製品による。シルガード9とガーダシルは2ヶ月、サーバリックスは1ヶ月。
- ◆ 2回目が遅れた場合、2→3回目の最低間隔はシルガード9・ガーダシル→3ヶ月以上、サーバリックス→2.5ヶ月以上
- ◆ **(表中※注)シルガード9の場合のみ、15歳未満(=概ね中学生)で1回目を開始してれば2回目を飛ばして6ヶ月後(最短5ヶ月)に3回目だけやる(合計2回接種となる)事が可能。勿論飛ばさず普通に3回接種も可能。効果は同等。**1回目接種時点で15歳以上だった場合は2回接種ではダメで、通常の3回接種のみ。
- ◆ 既にサーバリックス・ガーダシルで1回目または2回目まで接種済みでも、そこからシルガード9に乗り換えて可。
- ◆ HPV 予防ワクチンであって治療ワクチンではないので、既感染を排除する力はない。従って HPV 未感染がほぼ確実な処女である内に接種するのが望ましい。
- ◆ しかし今現在発癌 HPV に感染してなければ意味があるので、処女じゃなくても何歳でも、全ての女性に接種を推奨。
- ◆ この接種をしても、「絶対に癌にならない」わけではない。**子宮頸癌健診などは必ず受ける**べき。
- ◆ 江東区から「お知らせ」が届くのは中1女子だけだが、**小6～高1女子**はいつでも公費接種可能。更に↓
- ◆ 例によってカスゴミのクズ共が騒いだため HPV ワクチンは危険だと思いついで入る人が多いが、デマですよ。与太話信じてワクチンを敬遠した結果、少なくとも5000人以上の女性が子宮頸癌で命を落としたのです。騙されないでね。
- ◆ このデマのせいで接種できなかった女子(1997/04/02～2008/04/01 生まれ)を救済する“キャッチアップ接種”が**2025/03/31**まで実施中。対象者には区から予診票がくる。
- ◆ 2024.4月現在、**男性も9歳以上ならガーダシル**を接種できる。性的パートナーを守る大きな意義がある。ただし自費。江東区では2024年6月から**小6～高1男子**に公費補助がある見込み。本人または親から区への事前申請が必要。

● 带状疱疹ワクチン(VZV) (商品名: シングリックス®) 接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

対象者の年齢	50 歳
開始時年齢	
50 歳～ 計 2 回接種 これが標準	 <p>1 回目 2 回目</p> <p>← 2ヶ月～最長 6ヶ月 →</p>

- ◆ 理想的な接種は、**50歳で1回目、2ヶ月後に2回目**、となる。(最大で6ヶ月間隔)
- ◆ もちろん50歳以上でも未接種ならやった方がよしい。
- ◆ 带状疱疹阻止としては水痘ワクチンを接種する方法もあるが、シングリックスの方が効果が高い。ただし値段も高い。
- ◆ 年齢にもよるが水痘ワクチンの場合で阻止率50～70%、シングリックスで90～97%である。
- ◆ 2023/04/28以降、江東区では接種費用の一部が公費負担される。ただし**本人から区への事前申請が必要**。
- ◆ 2023/07/01以降、18歳以上の免疫不全者も接種可となった。この場合1ヶ月間隔。公費負担はない。
- ◆ 筋注。HPVワクチンと同じ手法で免疫効果を増強させてるので、接種部位の腫れなどはHPVと同様に起きる。

● RS ウィルスワクチン(RSV)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

対象者の年齢	60 歳
開始時年齢	
60 歳～ 計 1 回接種 これが標準	 <p>1 回目</p>

- ◆ 理想的な接種は、**60歳で1回**、となる。
- ◆ おそらく長期に効果が持続するが、それが何年間かは2024/04/01現在まだ確たるデータがない。今後の研究に期待。
- ◆ これはPPV23やインフルエンザワクチンと共に、高齢者の肺炎防止ワクチンの一つと捉えて良い。
- ◆ RSVは特に乳児に於いて重症化リスクが高いため、彼らを守る為のワクチンが他に2種ある。早産児に直接用いるシナジス®, 胎児への抗体移行目的で妊婦に用いるアブリスボ®である。ただし小児科や産科向けのみやクリでは扱ってない。
- ◆ 筋注。HPVワクチンと同じ手法で免疫効果を増強させてるので、接種部位の腫れなどはHPVと同様に起きる。

● 高齢者用肺炎球菌ワクチン(PPV23)接種スケジュール

ワクチン種別: 不活化ワクチン

年齢	2 歳	65 歳	70 歳	75 歳
開始時年齢				
65 歳～ 5 年毎接種 これが標準		1 回目		
～64 歳 公費補助外				

- ◆ 理想的な接種は、**65 歳で 1 回、あとは 5 年毎に 1 回ずつ繰り返し**、となる。
- ◆ 2 歳以上なら接種可だが、**2～5 歳はこれではなくて PCV20** を推奨する。
- ◆ 主として高齢者の肺炎(の一部) 予防が目的なので、65 歳以上が一応の目安となる。
- ◆ 19～64 歳でも、呼吸器疾患、喫煙者、心不全、糖尿病を含めた何らかの免疫不全等を持つ人には強く推奨される。
- ◆ (表中※)PPV23 の“賞味期限”は 5 年なので、これだけで行くなら 5 年毎に再接種を繰り返す事になる。**だが↓**
- ◆ 米国では 2024 年秋以降、PPV23 でなく **PCV20 を 1 回だけ接種する**方法が推奨されている(自費)。既に PPV23 を接種済の人はその 1 年以上後に 1 回だけ PCV20(自費)。いずれも PCV20 接種後は PPV23 不要。繰り返しも不要。
- ◆ 2024/03/31 までは、65 歳以上の「5 で割れる年齢」には公費による部分補助があったが、**2024/04/01 以降は 65 歳のみ**が公費部分補助の対象となる。
- ◆ **江東区では**、2024 /10/01～2025/03/31 の期間限定で「自費も含めて過去に一度も PPV23 やってない 66 歳以上」も公費による部分補助が出る。ただし**本人から区への事前申請が必要**。
- ◆ 過去に接種した事があっても、自費であればその 5 年後から PPV23 の再接種は可能。

附：みやくりいんちよの考える理想的なワクチン接種スケジュール(参考)

WHO 推奨ワクチン+日本の法律準拠 ただし日本では特殊な事しないと使えない物は非掲載

- ★ 縦↓に同じ欄に並んでいるものは同時接種推奨。
- ★ 横→に並んでいるものはワクチン種別により互いに適切な間隔を開けて接種する。
- ★ 「必須」は最低限こっだけはやっつけという意味。ただし色付いてない欄は自費。
- ★ 日本の予防接種は世界に比し大きく遅れていたが、2010年頃から大分改善されてきた。厚労省の中の人達頑張れ。超頑張れ。
- ★ 「できれば」は現状日本ではあまり(と言うか、ほとんど)行われていないが、医学的には推奨されるもの。
- ★ ワクチン略称(PCV20とかRVとか)の意味は本文を参照して下さい。

誕生から	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	7~8ヶ月	1歳	1歳1ヶ月	1歳6ヶ月
必須	DPTPH I-初-1	DPTPH I-初-2	DPTPH I-初-3	BCG		DPTPH I-追加	MR I	
	PCV20 初-1	PCV20 初-2	PCV20 初-3			PCV20 追加	水痘 1	水痘 2
	HBV 1	HBV 2			HBV 3		おたふく 1	
	RV 1	RV 2	RV 3 ^{★1}					
できれば					HAV 1		HAV 2	HAV 3

★1・・・ロタテック®を使用した場合。ロタリックス®では、3回目はありません。

誕生から	3歳	4歳	5歳	9歳	11歳	女子中学生	50歳	60歳	65歳	66歳
必須	日脳 I-初-1,2	日脳 I-追加	MR II	日脳 II	DT II	HPV 1,2,(3) ^{★2}	VZV 1,2	RSV	PPV23	
できれば			おたふく 2		HBV 追加	男子もHPV			PCV20	PCV20
			DTP 5		髄膜炎菌 1					

★2・・・シルガード 9®の1回目を15歳未満で開始し、且つ適切な間隔を開けた場合、3回目は必ずしも必要ではありません。

いずれもみやたけクリニックで勝手に推奨している時期というだけなので、この時期でなければダメだという事じゃないです。

※この他に、毎年10月後半と11月中旬頃にインフルエンザ×2回 または 10月に経鼻噴霧インフルエンザ×1回と、コロナワクチンを年1~2回。

※あと65歳以上の方は肺炎球菌ワクチン(PPV23)を5年毎。可能であればPPV23ではなくPCV20を1回だけ。既にPPV23やったのであれば1年後にPCV20してそれ以降PPV23の繰り返しなし。

※髄膜炎菌感染は日本では少ないしワクチンが高価なので必ずしも全員に接種を勧めるわけではないが、寮生活予定者などでは考慮すべき余地はあると思います。

※本当は、不活化ワクチンは大人になっても5~10年ごと位に接種しなおす方が良い。(そうしてる国もある。日本では「中学以降は知らねえよ」って方針。)